
 学 会 記 事

第 199 回新潟循環器談話会

日 時 平成 6 年 6 月 18 日 (土)

会 場 新潟大学医学部
第五講義室

I. 一 般 演 題

- 1) 左主幹部 (LMT) 閉塞による急性心筋梗塞
-
- に対する PTCA の成績

阿部 晃・小田 弘隆	(新潟市民病院 循環器科)
三井田 努・戸枝 哲郎	
樋熊 紀雄	

【目的】左主幹部 (LMT) 閉塞による急性心筋梗塞に対する PTCA の成績について報告する。【対象と方法】急性心筋梗塞で緊急 CAG を行い、LMT 閉塞を確認後、同部に PTCA をおこなった 6 名を対象とした。6 例全例に IABP を使用し、3 例には経皮的心肺補助 (PCPS) を併用した。予後について、臨床所見、CAG 所見、及び PCPS 使用の有無より検討した。【結果】1) PTCA は CAG 上、5 例で成功した (残存狭窄は 50% 未満)。2) 救命例は 3 例であり、1 名は 3 カ月後に心不全死した。3) 右冠動脈有意狭窄の頻度は救命例で 0/3、死亡例で 2/3 であり、側副血行路の有無は 2/3、0/3 であった。4) 再疎通までの時間は救命例 6 時間 20 分、死亡例 5 時間であった。5) 再疎通までの CPR の有無は救命例 0/3 死亡例 2/3 であった。6) PCPS を使用した 3 名中、救命は 1 例であった。【結語】救命例の特徴は、右冠動脈に有意狭窄が無く、側副血行路を供給していることと再疎通までに CPR を行っていないことであった。

- 2) 同一症例におけるトレッドミルと座位エル
-
- ゴメータ負荷の比較について

大島 満 (村上総合病院内科)

1993 年 6 月から 12 月まで当院でトレッドミルおよび座位エルゴメータ運動負荷試験を行った 40 例について、両運動負荷試験の結果を比較した。

トレッドミルは Bruce のプロトコールで施行し、エルゴメータは、T1-201 運動負荷心筋シンチグラム施行

時に、25 Watt もしくは 50 Watt で開始し、3 分毎に 25 Watt ずつ増加して行った。

運動負荷 peak 時心拍数は、トレッドミルで有意に高く、同最高血圧は有意差なかった。運動負荷 peak 時 double product はトレッドミルで有意に高かった。トレッドミルで胸痛もしくは ST 低下 0.1 mV 異常を示したが 35 例中、15 例は、エルゴメータ負荷時には胸痛なく、ST 低下 0.1 mV 未満であった。

トレッドミルで positive と考えられた症例の運動負荷心筋シンチグラム施行時に、画像上明らかな虚血所見がみられなくとも、エルゴメータ負荷で行ったため負荷不足となった可能性があり、注意が必要と思われた。

- 3) MIBG 心筋シンチグラムで興味ある所見を
-
- 示した HCM の 1 例

広川 陽一・山本 賢	(三之町病院 内科)
貝津 徳男	
渡辺 賢一・草野 頼子	(燕労災病院 循環器内科)
鷲塚 隆	

MIBG 心筋シンチグラムで、著明な心筋への集積低下を認めた肥大型心筋症 (HCM) の 1 例を経験した。症例は 69 歳女性、主訴は労作時息切れである。既往歴、家族歴とも特記事項はない。現病歴は、平成 2 年 10 月の検診で心電図異常を指摘され当院を受診、心エコー等で肥大型心筋症を疑われ、COQ 10 内服にて外来通院していた。平成 5 年 1 月より上記主訴が出現した。1 月 11 日の心電図では 44/分の洞徐脈であった。Holter 心電図では総心拍数 6 万の徐脈を認めた。T1-201 心筋シンチグラムでは、前壁を中心に集積増加を認めたが、MIBG シンチでは著明に集積が低下していた。心臓カテーテル検査では壁運動正常、正常冠動脈、心筋生検では HCM の所見であった。overdrive suppression test で 7 秒の洞停止あり、洞不全症候群と診断し DDD ペースメーカーを植込んだ。植込み後、主訴は消失した。本例にペースメーカー植込み後、3 カ月、6 カ月、12 カ月に MIBG 心筋シンチを施行したが、心筋への集積は認められなかった。MIBG が心筋に集積しない他の興味ある症例とともに報告する。